



# 児童図書研究室だより

令和5年3月23日 発行

Vol. 23

## 2022年 国内子どもの本に関する賞

賞		タイトル	著者	出版社	出版年	請求記号
☆日本絵本賞	大賞	たまごのはなし	しおたにまみこ/作	ブロンズ新社	2021.2	C913/シオ/
	絵本賞	はるのひ	小池アミイゴ/作・絵	徳間書店	2021.2	E/コイ/
		おすしやさんにいらっしやい!	おかだたいすけ/文 遠藤宏/写真	岩崎書店	2021.2	E/エン/
翻訳絵本賞	夜をあるく	マリ―ドルレアン/作 よしいかずみ/訳	BL出版	2021.11	E/トル/	
☆坪田謙治文学賞		ぼくんちのねこのはなし	いとうみく/作 榎敷大輔/絵	くもん出版	2021.12	C913/イト/
☆講談社絵本賞	絵本賞	海のアトリエ	堀川理万子/著	偕成社	2021.5	E/ホリ
☆産経児童出版文化賞	大賞	こそあどの森のおとなたちが子どもだったころ	岡田淳/作	理論社	2021.5	C913/オカ/
	JR賞	おすしやさんにいらっしやい!	おかだたいすけ/文 遠藤宏/写真	岩崎書店	2021.2	E/エン/
	美術賞	ヴオドニークの水の館	まきあつこ/文 降矢なな/絵	BL出版	2021.4	E/フリ/
	産経新聞社賞	ハタハタ	高久至/写真・文	あかね書房	2021.12	E/タカ/
	フジテレビ賞	人魚の夏	嘉成晴香/作 まめふく/絵	あかね書房	2021.7	C913/カナ/
	ニッポン放送賞	つくしちゃんとおねえちゃん	いとうみく/作 丹地陽子/絵	福音館書店	2021.3	C913/イト/
	翻訳作品賞	ぼくは川のように話す	ジョーダン・スコット/文 シドニー・スミス/絵 原田勝/訳	偕成社	2021.7	E/スミ/
☆日本児童文学者協会賞		真夜中のちいさなようせい	シンソンミ/絵と文 清水知佐子/訳	ポプラ社	2021.6	E/シン/
		夜叉神川	安東みきえ/著 田中千智/画	講談社	2021.1	C913/アン/
☆日本児童文学者協会新人賞		オイモはときどきいなくなる	田中哲弥/著 加藤久仁生/画	福音館書店	2021.7	C913/アン/
		かすみ川の人魚	長谷川まりる/作 吉田尚令/絵	講談社	2021.11	C913/ハセ/
☆日本児童文芸家協会賞		うさぎとハリネズミ きょうもいいひ	はらまさかず/文 石川えりこ/絵	ひだまり舎	2021.4	C913/ハラ/
		聞かせて、おじいちゃん	横田明子/著	国土社	2021.5	C319/ヨコ/
☆児童文芸新人賞		カイトとルソンの海	土屋千鶴/作	小学館	2021.5	C913/ツチ/
		カメくとイモリくん 小雨ぼっこ	いけだけい/作 高島純/絵	偕成社	2021.1	C913/イケ/
☆児童文芸ノンフィクション文学賞		2021年をもって休止				
☆小学館児童出版文化賞		そらのことばが降ってくる	高柳克弘/作	ポプラ社	2021.9	C913/タカ/
		海のアトリエ	堀川理万子/著	偕成社	2021.5	E/ホリ/
☆福島正実記念SF童話賞	大賞	該当なし				
	佳作	未来の種	山世孝幸			
	佳作	ウサギ体験中!	たなひろ乃			
	佳作	カエルのアーチ	野川美保			
☆ひろすけ童話賞		たいじょうぶくん	魚住直子/作 朝倉世界一/絵	ポプラ社	2022.3	C913/ウオ/
☆小川未明文学賞	大賞	カステラアパートのざらめさん	島村木綿子/作 コマゾンヤ/絵	Gakken	2022.12	C913/シマ/
☆講談社児童文学新人賞	新人賞	該当なし				
	佳作	波あとが白く輝いている	青野灯/作			
☆講談社絵本新人賞	新人賞	まよいぎょうざ	玉田美知子			
	佳作	たまごのくにのおうじさま	としやマン			
		ひみつのえんがわ	torisun			
	おんぶこやにやいとこやく	殿本祐子				
☆野間児童文芸賞		たぶんみんなは知らないこと	福田隆浩/著 しんやゆう子/画	講談社	2022.5	C913/フク/
☆けんぶち絵本の里大賞	大賞	あきらがあげてあげるから	ヨシタケジンスケ/作・絵	PHP研究所	2021.4	E/ヨシ/
	ひばからす賞	パンどろぼうとなぞのフランスパン	柴田ケイコ/作	KADOKAWA	2021.11	E/シハ/
		やつぱりじゃない!	チョーヒカル/作	フレール館	2021.11	E/チヨ/
アルバカ賞	大ピンチずかん	鈴木のりたけ/作	小学館	2022.2	E/スズ/	
☆日産童話と絵本のグランプリ	童話の部大賞	木箱の蝶	藪口莉那/さく 横須賀香/え	BL出版	2022.12	E/ヨコ/
	童話の部優秀賞	お姉ちゃんの不思議なクレヨン	やぎみいこ			
		1が2 2が4 4が8	コウタリリン			
		ナツちゃんの考えごと	日下昭子			
	絵本の部大賞	みかんきょうだいのたんけん	ホソカフレイコ/作	BL出版	2022.12	E/ホソ/
	絵本の部優秀賞	ぼくはくさもち	みやもとかずあき			
りゅうのごんざ		うめはらまんな				
せかいいちおきやくのこないどうぶつえん		たぶしゆみ				

# 令和4年度 第1回ボランティアスキルアップ講座



令和4年6月17日 岡山県立図書館を会場に、令和4年度第1回  
県立図書館ボランティアスキルアップ講座（児童サービス支援コース）  
を開催しました。

## 「子どもとともに絵本の時間」

講師 山田節子 氏  
(鳥取県図書館協会会長)

講師の山田氏は、家庭文庫「きんたろう文庫」を運営する傍ら、鳥取県内各地での読み聞かせや講演など、子どもの読書推進活動に関わる活動を幅広く行われています。令和2年度には、文部科学省から子どもの読書活動優秀実践個人として文部科学大臣賞を受賞され、現在は鳥取県図書館協会会長、鳥取県子ども読書アドバイザー、鳥取市子どもの読書活動推進委員長ほか、多数の審議員等を歴任されています。今回は、読み聞かせボランティアとしての心構えや子どもの育ちと絵本の持つ力、発達年齢ごとの絵本の選び方など、実例を挙げながらご講演いただきました。ここではその一部をご紹介します。

はじめに、子どもの育ちと環境の変化として、平成・令和の子どもたちは、昭和の子どもたちと比べテレビゲームが日常的になるなど遊び方に大きな変化があり、絵本を手取る機会が減ってきているそうです。さらに、親世代が子ども時代に読み聞かせをしてもらった経験があるか否かによっても子どもの聞く力や聞いたお話を楽しむ想像力に幅が出ているとのことでした。

絵本には、「ことばを楽しむ」力、「感じて楽しむ」力、「温かな肌のぬくもり」があり、美しい日本語が散りばめられた絵本を読むことで、ことばを獲得し、心ごと、体ごと、絵本を感じて楽しむことができるようになるようです。自分だけを膝に乗せて、生の声で絵本を読んでもらうという体験は、子どもにとって、落ち着く楽しい時間となり、親子の大切なコミュニケーションを育むことができるというお話もありました。

また、食事にも主食とおやつがあるように、絵本にも、「主食の本」と「おやつの本」があるとのことでした。「主食の本」は、想像力を育てる本で、起承転結のある話や、良書として長く読み継がれてきたような本のことだそうです。主人公がはじめにきちんと語られているか、絵だけでお話が分かるかどうか、逆に文章だけでお話が分かるかどうか、選書の際にそういった点に気を配ると、「主食の本」が見えてくるようです。東京子ども図書館が推奨している絵本のリストを参考にとすることもおすすめされていました。それに対して「おやつの本」は、テレビアニメやキャラクターものの本など、ストーリー性が乏しく、結末がないものや、会話文が中心で話がすすむものなどのことだそうです。子どもが「おやつの本」を「よんで」と持ってくれば断らずに楽しんでください。ただ私たち大人は、子どもの心と言葉を育む「主食の本」を手にとって子どもとともにおはなしの世界を存分に楽しんでほしいとのことでした。

子どもの成長に合わせて手渡したい本を年齢別に紹介されました。0, 1歳児は、視力が弱いので、『じゃあじゃあびりびり』（まついのりこ/作 偕成社）などの原色で、はっきりしたものや、『もこもここ』（谷川俊太郎/作 元永定正/絵 文研出版）などのリズム感のあるものが好まれるそうです。また、『いないいないばあ』（松谷みよ子/文 瀬川康男/〔絵〕童心社）など、キャラクターが正面を向いているものがおすすめだそうです。2歳児には、『しろくまちゃんのほっとけーき』（わかやまけん/〔え〕 森比左志/著 こぐま社）や『もりのおふろ』（西村敏雄/さく 福音館書店）など、その子の生活に沿った身近なものが良いようです。3歳児は、『おおきなかぶ』（内田莉沙子/再話 佐藤忠良/絵 福音館書店）、『びききのやぎのがらがらどん』（マーシャ・ブラウン/え せたていじ/やく 福音館書店）のような、繰り返しのあるお話が、安心感につながるようです。4, 5歳児になると時空間の感覚を獲得するとのことで、『ぐりとぐら』（中川李枝子/さく 大村百合子/え 福音館書店）、『こすずめのぼうけん』（ルース・エインワース/さく ほりうちせいいち/え 福音館書店）、『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』（バージニア・リー・パートン/ぶん え むらおかはなこ/やく 福音館書店）など、時間の経過や場所の転換のあるものや、昔話なども楽しめるようになってくるそうです。

今回は、家庭文庫や読み聞かせボランティアなど、多方面で活躍されている山田氏より、ボランティアとして心に留めておくべきことを幅広く教えていただきました。新型コロナウイルスの影響により生活様式や子どもにとっての「日常」が大きく変わっていく中で、子どもたちに寄り添う私たちが変わらず大切にしていけるべきものを学べる講演会となりました。

# 展示「堀内誠一生誕90周年」

2022年5月19日～7月12日まで、児童図書研究室展示1のスペースで、「堀内誠一生誕90周年」と題して展示を行いました。『ぐるんぱのようちえん』『こすずめのぼうけん』などの絵本作品をはじめ、その才能をさまざまな分野で発揮してきた堀内氏。展示では、堀内誠一の略年譜で生涯を振り返るとともに、著作の絵本や児童図書、研究書を集めました。展示の様子と関連資料をご紹介します。

## 1 堀内誠一

1932年12月20日、東京で生まれました。父・治雄は図案家で、誠一は幼少期より外国雑誌や画材、ポスター、絵本、映画に親しみました。その後、14歳で伊勢丹百貨店宣伝課に装飾係員として入社し、写真雑誌のADを経てアド・センターの創立メンバーになります。雑誌「アンアン」「ポパイ」などのデザインで一時代を画すと同時に、絵本を制作しました。『ぐるんぱのようちえん』『こすずめのぼうけん』『ロボット・カミイ』『いっぼんの鉛筆のむこうに』などの多彩な絵本作品だけにとどまらず、広く深い視点からの絵本評論、旅のエッセイ、ファッション誌のアートディレクションなどの分野で活躍しました。1987年8月17日、54歳で死去しました。

## 2 代表的な作品

### 『ぐるんぱのようちえん』(西内 ミナミ/文 堀内 誠一/絵 1966年 福音館書店)

ひとりぼっちで暮らしてきた、とっても大きな象のぐるんぱは、大きくなったのにいつもジャングルをぶらぶらしているからと、働きに出ることになりました。みんなに洗ってもらい、見違えるほど立派になったぐるんぱは、ビスケット屋やお皿作り屋、靴屋などで働きますが、大きなものばかり作ってしまい追い出されてしまいます。涙が出そうなるんぱでしたが、12人も子どもがいるお母さんに会い、子どもたちと遊んでほしいと頼まれます。ぐるんぱは幼稚園を開き、今まで作った大きなものを使って、子どもたちを楽しませることができました。登場人物が水彩画で鮮やかに描かれています。



### 『こすずめのぼうけん』(ルース・エインワース/さく ほりうち せいいち/え 1977年 福音館書店)

小さなこすずめは、お母さんすずめから飛び方を教わり、面白くなって遠くまで飛んでみましたが、少しずつ羽が痛くなって、休みたくなりました。鳥の巣を見つけてはその縁にとまり、中へ入って休ませてほしいと頼みますが、からすややまばと、ふくろうなど、出会った鳥たちは仲間ではないからと、中には入れてくれません。こすずめは、ついに疲れて飛べなくなり、地面の上をぴょんぴょん歩き始めました。向こうからやってきた一羽の鳥に声をかけると、なんとお母さんすずめでした。再会した親子は巣に帰り、一緒に眠りました。鳥や自然の描写が巧みで、リアルに表現されています。

### 『ロボット・カミイ』(古田 足日/さく 堀内 誠一/え 1980年 福音館書店)

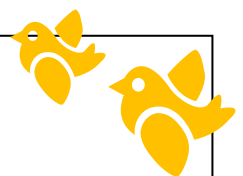
たけしとようこは、ダンボールでロボットを作り、カミイと名付けました。二人と一緒に幼稚園に行くことになったカミイでしたが、わがままばかり言って、仲間外れにされてしまいます。ある日、桃組のみんなで野原へ行こうと、交差点を渡ろうとしたところ、信号無視のダンプカーが走ってきます。子どもたちはころんでしまい、いまにもひかれそうになりますが、力持ちのカミイがダンプカーの前に飛び出します。カミイはひかれてしまいますが、みんなの力で生き返り、仲直りをした後に、カミイはロボット幼稚園に帰っていきました。わんぱくなカミイの様子が挿絵からも伝わってきます。

#### <参考文献>

堀内誠一『堀内誠一 絵の世界』平凡社、2022.3

福音館書店母の友編集部『絵本作家のアトリエ 2』福音館書店、2013.4

『この本読んで！第7巻第3号』出版文化産業復興財団、2007.9





# 児童図書研究書の紹介

2022年に発行された児童図書研究書のうち、下記の6点をご紹介します。



## 『これだけは読んでおきたいすてきな絵本100』

木村美幸／著 風鳴舎／発行 2022年 請求記号 019.53/㍻22/ 資料番号 0016047367

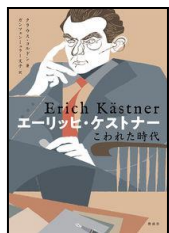
絵本コーディネーターの著者が、絵本製作に携わった経験をもとに魅力いっぱいの絵本を紹介しています。0～7歳までの対象年齢別だけでなく、食育、言葉遊び、友だちなどテーマ別でも紹介されており、その本の「ねらい」や「トピックス」も解説されています。子育てや保育に関わる人におすすめの一冊です。

## 『エーリッヒ・ケストナー こわれた時代』

クラウス・コルドン／著 ガンツェンミュラー文子／訳 偕成社／発行 2022年

請求記号 940.278/㍻22/ 資料番号 0016067506

『エーミールと探偵たち』などで知られる、ドイツの児童文学作家エーリッヒ・ケストナーの激動の生涯を本人の言葉の引用などを通して描いた伝記の新訳です。彼は、作家・詩人・ジャーナリストなど多方面で活躍しましたが、ナチ政権下では執筆を禁じられ、命の危険にさらされながらも第二次世界大戦を生きのび、戦後はドイツ・ペンクラブ会長として活躍しながら平和を訴えました。時代を追いながら、彼の人生に迫ります。



## 『絵本のつぎに、なに読もう？ 幼年童話と過ごした日々』

越高 綾乃／著 かもがわ出版／発行 2022年 請求記号 909.3/㍻22/ 資料番号 0016109399

長野県松本市の児童書専門店「ちいさいおうち」の一人娘として生まれ、現在は同書店の広報担当をしている著者が、自身が子どもの頃に何度も読んだり読んでもらったりした本をベースに、絵本から物語への橋渡しをしてくれる存在として「幼年童話」にスポットを当てて紹介しています。エッセイとコラムに加え、巻末には現役小学生との対談も収録されており、世代を超えて長く読み継がれている作品が多数登場しています。

## 『とびだせ!長谷川義史 ぼくの歩いてきた道』

長谷川 義史／著 求龍堂／発行 2022年 請求記号 726.601/㍻22/ 資料番号 0016124315

本書は、長谷川義史の著作絵本原画を中心に、イラストレーションやスケッチ、立体作品など絵本以外の作品も交え、「絵本作家・長谷川義史」のこれまでの創作の軌跡と魅力とを紹介しています。『いいからいいから』などのユーモアあふれる絵本から、災害をテーマにしたものまで、「笑いと平和」の思いを描く作品が多数掲載されています。全国を巡回する展覧会「とびだせ!長谷川義史」の公式図録を兼ねた作品集です。



## 『かこさとし 科学絵本の世界』

藤嶋昭／著 学研プラス／発行 2022年 請求記号 407/㍻22/ 資料番号 0016448391

「科学の本質を正しく、楽しく伝えたい」というかこさとしさんの思いに共感した著者が、かこさとしの科学絵本について紹介した一冊です。38冊の科学絵本について、一冊ずつ科学の本質に触れながら、科学の魅力を味わうことができます。科学を知り好きになり楽しんでほしいという思いがつまっています。



## 『障害とバリアフリー いっしょに生きる子どもブックガイド』

障害と本の研究会／編著 かもがわ出版 2022年 請求記号 369.27/㍻22/

資料番号 0016408361

本書は、障害とバリアフリーを考えるためのブックガイドです。障害とバリアフリーについて考えたり理解を深めたりする本を、小学校低学年から中学生以上向けまで、絵本や物語、ノンフィクションなど幅広いジャンルから155冊紹介しています。興味・関心からわかるようにチャートで紹介しているページや、巻末にはテーマとキーワードでさがす索引、人名・書名索引もあり、様々な視点から本を探ることができます。

発行日 令和5年3月23日発行

発行 岡山県立図書館 サービス第一課 児童資料班

〒700-0823 岡山県岡山市北区丸の内2-6-30 Tel : 086-224-1286・1288 Fax : 086-224-1208